

みんなでスタートラインに立ち、ヨーイドン!

チーム川崎のつくり方

災害時の地域・行政の活動や対応手順をあらかじめ決めておき、みんなが共通認識しておくことで災害対応はスムーズになります。



自治体同士や関係機関では、訓練を通して災害対応の標準化が始まっています。地域の自主防災組織をはじめ、市民の皆さんとも訓練を通じて標準化が出来ると地域防災力が向上しますね。

災害時にスムーズに活動するためには、対応や用語に対する標準化が必要です。地域でできることとしては、例えば初期消火の方法や避難所運営方法などを標準化していると良いですね。



平時から相互理解を深めることが重要です

阪神・淡路大震災の時に、神戸市に支援に入った他都市の消防隊が持ち込んだ消火ホースと現地の消火栓の規格が合わず活動が円滑に進まなかった事例がありました。

こうした経験を踏まえ、災害対応の標準化が進みました。災害時に使う機材の標準化はもちろん、訓練を通じて、災害対応の手順を共有し、標準化しておくことにより、災害対応が円滑に進みます。

行政の中では日々訓練を通じ、対応の標準化が進んでいますが、地域の自主防災組織をはじめ、市民の皆さんとも行政の取組内容や公助の限界などを共有し、行政が支援に入れない場合の対応についてあらかじめ話し合っておくことで災害時の対応がスムーズに進みます。平時からコミュニケーションを図り相互理解を深めることが重要です。

こんな取組も始まっています

東京大学目黒教授らが設立した災害対策トレーニングセンター(DMTC: Disaster Management Training Center)では、災害対応に必要な行動を標準化しています。

川崎市では、こうした新たな手法を用い、自主防災組織の皆さんと研修などの場を活用して災害対応について相互理解を進め、災害対応の標準化を始めています。

自助・共助・公助の一体感を高めるイベント 市総合防災訓練に参加してみませんか?

日時: 令和5年9月3日(日)午前9時~正午まで

場所: 菅多目的広場(川崎市多摩区菅野戸呂)、

川崎市立南菅中学校(川崎市多摩区菅馬場4-1-1) ほか



総合防災訓練は、関係機関が集まって訓練するためだけの場ではありません。平時から、地域の皆さん同士が顔を合わせる地域のコミュニティづくりの場でもあり、市民の皆さんが正しい防災情報や知識を得る場でもあります。

正しい備えを始めるためにも、ぜひ一度参加してみませんか。

●救出救護訓練

大地震発生から数時間後の状況における市及び防災関係機関が相互に連携した情報収集・道路啓開・救出救護・災害時応急医療等の訓練を実施します。

●避難所運営訓練

発災から3、4日経った避難所運営や医療・支援物資緊急輸送・ライフライン応急・復旧等の訓練を地域と関係機関が連携して実施します。また、防災体験(VR体験、初期消火、応急救護等)や防災啓発を実施します。



居住スペース設置訓練の様子

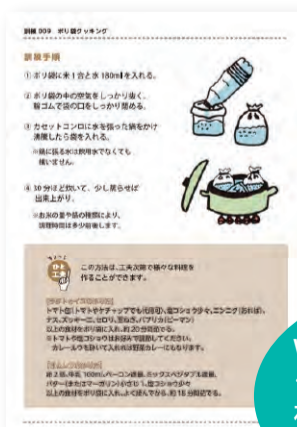


参加者によるパッククッキングの実践の様子

家庭で、地域で防災訓練 「みんなで訓練48」を始めませんか?

本市では、防災訓練を誰でも実施できるツールとして、「みんなで訓練48」を作成し、普及啓発をしています。訓練手順をイラスト中心に掲載し、訓練の狙いと効果や、訓練実施に必要な物品等を記載しています。

地域での防災訓練等でも、こうした家庭でもできることを地域に広めていくなど活用してみませんか。 詳細は、市HPで。



WEBで見ながら進めていくこともできるし、印刷すればカード化もできて配ったりもできます。

例えば、毛布と物干し竿で簡易的な担架を作る方法や、少ない水と限られた熱源で上手に調理するポリ袋クッキング(パッククッキング)など、家庭でもできる訓練内容になっています。